

ジュニアバレーボールクラブチーム設立による「まちおこし」 ～アメリカのクラブチームを研究事例として～

学校体育マネジメントコース
5006A346-6 諸隈英人

研究指導教員： 友添秀則教授

研究動機・目的

1) 動機

日本代表バレーボールチームの強化には代表選手育成を目的としたジュニアバレーボールクラブチーム設立の必要性を感じ、そのジュニアバレーボールクラブチームの運営を通じて「まちおこし」ができないかとの発想から本研究を開始した。

2) 目的

ジュニアバレーボールクラブチームを設立・運営していくことが「町おこし」として地域振興の一端を担えるのか、本研究にて検証する。

論文構成

- 序章において本研究の動機、目的、方法、限界、用語の解説を展開する。
- 第1章は、「まちおこし」の定義、批判検討と題し、第1節においてスポーツによる「まちおこし」を概念定義し、第2節において企業が抱えるジュニアクラブチームを批判検討し、第3節において総合型地域スポーツクラブを批判検討する。
- 第2章は、「Sports Performance Volleyball Club」（アメリカ）の事例研究と題し、第1節においてアメリカのバレーボールの運営形態分析をおこない、第2節で、「Sports Performance Volleyball Club」の概要を説明し、第3節は日本のクラブチームに利用可能な活動を紹介。
- 第3章は、ジュニアバレーボールクラブチームで「まちおこし」と題し、第1節で日本におけるクラブチームの必要性を述べ、第2節でジュニアバレーボールクラブチームの振興による「まちおこし」の構想を展開、第3節でジュニアバレーボールクラブチームの振興による「まちおこし」の地域振興効果を

を考察する。

論文概要

- 第1章において、まず第1節では、「まちおこし」の概念を定義する。経済効果だけではなく、地域住民の精神的活性化を伴う地域振興が必要であると結論付け、スポーツを「まちおこし」に利用することとする。第2、3節で現在展開されている企業が抱えるジュニアクラブチームや総合型スポーツクラブを批判検討。地域に根ざしたクラブチームは「単一種目、多世代」が望ましいので、それを「まちおこし」として利用するクラブチームの形態と位置づけする。
- 第2章において、第1節では、アメリカでおこなわれているシーズン制のスポーツシーンという背景を紹介し、第2節において事例研究をおこなう「Sports Performance Volleyball Club」のクラブ概要を説明し、アメリカでは部活動よりもクラブチームの活動の方が活発であり、日本において「まちおこし」として展開するヒントを多々抱えているので、それを第3節において説明する。
- 第3章において、第1節ではアメリカで展開されているものを日本に導入するに当たっての考察点を述べる。また、学校部活動の活動減少などにより今後の日本のスポーツシーンにクラブチームの必要性を記述。第2節では、そのジュニアバレーボールクラブチームの展開方法やその上での問題点などを記述。第3節では、そのジュニアバレーボールクラブチームの運営によって地域住民が精神的に活性化され、健やかな明るい生活をおこなうなどの地域振興効果として期待できるものを記述。
- 結章では、ジュニアバレーボールクラブチームによ

る「まちおこし」は展開可能との結論に至る。解決されなければならないさまざまな問題は抱えているものの、バレーボールは、地域に密着したスポーツとして展開できよう。経済的効果よりも地域住民の精神的活性化に焦点をしばり展開したので、具体的な経済効果や実際に応用できる場面などについては、不明瞭な点があり、今後これらを明らかにしていくために更に研究を続けていくこととする。

主要参考文献

- 1) 黒須充・水上博司監修(2002):ジグソーパズルで考える総合型地域スポーツクラブ、大修館書店
- 2) 黒須充・矢崎弥(1991):スポーツと地域振興に関する研究
- 3) 山口泰雄(1998):地域社会の活性化とスポーツクラブ、「スポーツと健康」1998年12月号